

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分
 【発行日】平成30年8月2日(2018.8.2)

【公開番号】特開2017-199461(P2017-199461A)
 【公開日】平成29年11月2日(2017.11.2)
 【年通号数】公開・登録公報2017-042
 【出願番号】特願2016-86806(P2016-86806)
 【国際特許分類】

H 0 1 R 4/18 (2006.01)

H 0 1 B 7/00 (2006.01)

【 F I 】

H 0 1 R 4/18 A

H 0 1 B 7/00 3 0 6

【手続補正書】
 【提出日】平成30年6月22日(2018.6.22)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【 0 0 0 8 】

【図 1】実施例 1 の導電部材の部分側面図

【図 2】図 1 の X - X 線断面図

【図 3】被覆導体が未接続の状態をあらわす剛性導体の正面図

【図 4】実施例 2 の導電部材の X - X 線相当断面図

【図 5】実施例 3 の導電部材の X - X 線相当断面図

【図 6】実施例 4 の導電部材の X - X 線相当断面図

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 2 8 】

本体部 3 3 がカシメ加工されていない状態（剛性導体 3 0 と被覆導体 2 0 が未接続の状態）では、4 つの摺接部 3 4 は、本体部 3 3 の周方向に等角度間隔を空けて配されている。尚、本実施例 2では、摺接部 3 4 の数を 4 つとしたが、摺接部 3 4 の数は、3 つ以下でもよく、5 つ以上でもよい。各摺接部 3 4 は、屈曲した壁状をなし、本体部 3 3（筒状端末部材 3 1）の全長に亘って連続して形成されている。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 9
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 2 9 】

剛性導体 3 0 の軸線と直角に切断したときの断面において、各摺接部 3 4 は、鈍角状に屈曲した形状（図示省略）をなしている。つまり、1 つの摺接部 3 4 は、本体部 3 3 の内周から径方向に対して斜めに突出した周縁側壁部 3 5 と、周縁側壁部 3 5の突出端縁から本体部 3 3 の中心に向かって突出した中心側壁部 3 6 とによって構成されている。周縁側

壁部 3 5 と中心側壁部 3 6 は、斜めに繋がっている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 7】

本実施例 4 の筒状端末部材 5 1 (固着部 5 2) は、剛性導体 5 0 と被覆導体 2 0 が未接続の状態で円形をなす本体部 5 3 と、本体部 5 3 の内周から周方向に等角度間隔を空けて配置された複数 (例えば、1 2) の摺接部 5 4 とを備えている。各摺接部 5 4 は、本体部 5 3 の内周から径方向内向きに突出したリブ状をなしている。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 0】

A , B , C , D ... 導電部材

1 0 , 3 0 , 4 0 , 5 0 ... 剛性導体

1 1 ... 筒状本体

1 2 , 3 1 , 4 1 , 5 1 ... 筒状端末部材

1 3 , 3 2 , 4 2 , 5 2 ... 固着部

1 5 , 3 4 , 4 4 , 5 4 ... 摺接部

2 0 ... 被覆導体

2 1 ... 柔軟導体

2 2 ... 素線

2 3 ... 絶縁被覆